

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	田代町立田代中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	38	24	29	0	91	

研究の概要

1. 研究主題

<p>基礎・基本の確実な定着を目指す学習指導 ～指導方法の工夫・改善と評価の在り方～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

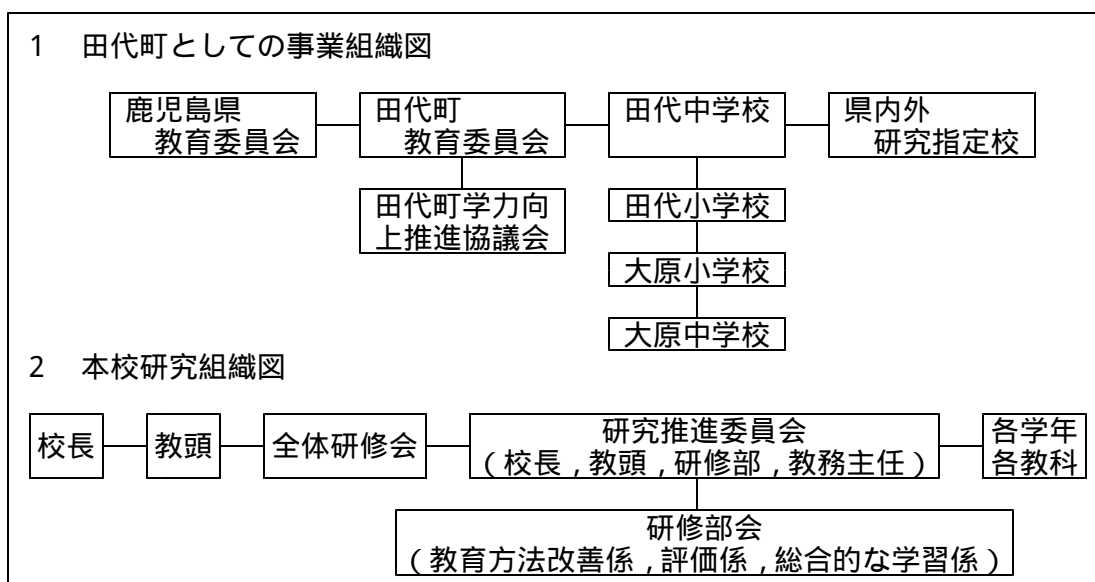
<p>・全学年 ・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 小学校との連携をはかるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を目指す学習指導 ～指導方法の工夫・改善と評価の在り方～ 研究の見通し 基礎・基本の定着度を適切に評価し指導に生かすことで基礎・基本が定着するのではないかと。 適切な指導・援助のもとで、基礎・基本を重点化した学習を行い、学習環境や指導方法、指導態勢を工夫すれば基礎・基本が定着するのではないかと。 研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態把握 <ol style="list-style-type: none"> (1) 標準学力検査の活用 (2) 生活の記録の利用やアンケート調査 2 学習への取り組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習時間の約束の徹底 (2) 基本的な生活習慣の確立と家庭との連携 (3) 定期テストへの取り組み計画の立て方指導 (4) TT, 少人数指導, 習熟の程度に応じた指導による効果的な指導方法の研究 (5) 達成度個人票の作成と活用 3 教育的環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教室内外の環境の整備・工夫 (2) 特別教室, 資料室, 少人数指導教室等の環境の整備・活用 4 評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 評価規準の見直し (2) 評価基準の作成(基礎・基本のとらえ方の共通理解) (3) 評価簿の作成と授業内での活用 (4) 指導と評価の一体化 5 小中連携指導 6 1年次のまとめと反省, 次年度の計画の見直し
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 基礎学力の確実な定着を目指す学習指導 ～指導方法の工夫・改善と評価の在り方～ 研究の見通し 基礎・基本の定着度を適切に評価し指導に生かすことで基礎・基本が定着するのではないかな。 適切な指導・援助のもとで、基礎・基本を重点化した学習を行い、学習環境や指導方法、指導態勢を工夫すれば基礎・基本が定着するのではないかな。 研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎・基本の定着度評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎・基本を明確に位置づけた授業の展開 (2) 基礎・基本の定着度診断テストの作成と活用 (3) 結果を生かした授業の改善 2 個に応じた指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) 習熟の程度に応じた指導の効果的な活用方法の研究 (2) 個に応じるための補足的な学習の研究 (3) 個に応じるための発展的な学習の研究
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 1 生徒の実態の把握
標準学力検査やアンケートの結果をもとに生徒の実態を分析した。基礎学力定着のために家庭学習に注目し、国数英で約1時間程度の宅習を全学年で毎日実施してきた。
- 2 学習への取組
まず、授業へのぞむ態度の育成に注目し、学習時間の約束事を研究授業の視点に取り入れた。その結果、教師側も意識して指導するようになり、生徒のノートの取り方をはじめ授業態度もよくなってきている。また、各生徒の基礎学力を高めるために、指導方法（TT、個別指導など）や評価の仕方を工夫するなど、教師側に意識の高まりが見られた。
- 3 教育的環境の整備
各教室では担任を中心に月、学期、行事を考慮してそれぞれの目標に向かって学級や個人が頑張っていけるような設営を行った。

- 4 評価
評価基準を作成したことで各単元の評価場面が整理でき、授業の焦点化や支援がより具体的に行えるようになった。また、評価簿を用いることで生徒一人一人をよく観察して評価しようとするなど意識が高まり、日常の評価を学期ごとの評価に生かせるようになった。
- 5 小中連携
小学校の授業を参観したり、中学校の授業を参観してもらったりして引き続き指導していける事柄について考える機会をもてた。

2. 今後の課題

- 1 生徒の実態の把握
生活の記録を利用して、毎日の家庭学習の指導や助言を更に行っていく。また、実施したアンケート結果より今後の取り組みについて検討し、実践にうつしていく。
- 2 学習への取り組み
家庭での基本的な生活習慣確立のために、学級通信や保健便りをもっと利用していく。授業では学習時間の約束事については継続して指導していくとともに、一斉授業だけではなくT・Tや習熟の程度に応じた学習など生徒の実態に合わせた授業形態を更に研究し実践にうつしていく。
- 3 教育的環境の整備
学習時間の約束事など全教科で共通して指導する事項は全教室に掲示する。また、少人数教室の掲示物を工夫し、基礎・基本の定着に生かせるようにしていく。
- 4 評価
評価規準、基準ともに生徒の実態に合わせて見直しをしていく。また、全観点の評価できる工夫や、1単位時間内でスムーズに評価できるよう評価補助簿を工夫・改善していく必要がある。また、自己評価表を作成して生徒自身が評価できるようにしていく。
- 5 小中連携
教科部会などの持ち方を工夫したり、授業研究を小中合同で行えるよう時間を設定していく。

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査...生徒の学力実態把握(4月)

学習面・生活面に関するアンケート...生徒の実態の把握(5月上旬, 1月下旬)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 保護者への説明会(4月 PTA総会)
- * 教育方法改善小中打合せ(12月, 1月)
- * 学力向上推進協議会(6月, 12月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	レ	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	レ	3学級以下 7~9学級 13~15学級	4~6学級 10~12学級 16学級以上
【指導体制】	レ	少人数指導 その他	T・Tによる指導
【研究教科】		国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他
	レ	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	レ	有	無